

令和3年度予算に対する

各会派の

見解

その場しのぎの区政運営を改めよ!!

自由民主党議員団

現区長の就任時、潤沢であった財政は、現区政の放漫経営により悪化し、構造改革が必要となった責任の重さを区はよく考えるべきです。

昨年、現区政で「基準となる一般財源規模(基準額)」を2年間で60億円膨らませ、750億円に増額したことをメタボ体質と指摘しました。区は財政基準を自己都合でその都度改変し、コロナ禍で税収減となる来年度、基準額を687億円に減額する行きあたりばったりの運営です。

さらに問題は、基金(区の貯金)の運用方法です。平成30年には700億円あった基金が三年間で約240億円減り、区の基本計画(素案)では令和

区の財産である「人」を守る区政を

立憲民主党・無所属議員団

新年度予算は、新型コロナウイルスの影響により一般財源が約68億円の減収見込みとなった。一方、感染拡大の長期化により、生活に困難を抱える区民は増加し、区内経済も落ち込んでいる。そうした中、区民サービスに極力影響のない範囲で経常経費削減に取り組んだ上で、暮らしを支える予算が計上されている。PCR検査センター事業や各種施設の感染症対策など直接の経費のみならず、感染拡大により経済的な格差が広がる中での子どもの貧困対策となる就学援助の拡充、高齢者のフレイル予防や配食事業の実施は評価する。

令和2年度中には区内プレミアム付

説明責任果たし区民生活を守れ

公明党議員団

令和3年度の予算編成では前年度と比較し一般財源で92億円の減収が見込まれるとし、区は経常経費20%の削減に取り組むことを示した。議会もその意をくみ議会費10・6%の削減を推進したが、行政側は9%の削減と公言したものの、実態は基金・起債投入後の数値で、一般財源の削減は目標とは程遠い4・5%に留まった。

わが会派は、昨年来、新型コロナウイルス感染拡大が区民生活を脅かすことを重く受けとめ、区民の生命と健康、生活を守ることに注力し、多くの区民の声に耳を傾け全力で取り組んできた。そうした意味から令和3年度予算は区民生活を守る施策を充実させることを

コロナ禍から命・暮らし・人権を守る予算

日本共産党議員団

一般会計予算は、コロナ禍による影響で特別区税と特別区交付金が減少する中であっても、区は事業や内部業務の見直しを行うことで経常経費の削減に努め、必要な区民サービスを維持するために財政調整基金の繰入を行ったことは重要です。コロナ対策では、PCR検査センターの設置、介護・障害者施設、保育園・幼稚園等への感染症対策経費の支給、自宅療養セットの配布など独自の対策を行ってきましたが、2021年度も引き続き計上したことは評価します。子ども関連では、児童相談所の開設や就学援助基準の拡充が取り組みも重要です。旧中野刑務所正

区は、区民や議会に誠実な対応を!

都民ファーストの会中野区議団

令和3年度の予算案は、総額でおよそ1472億円となり、昨年度と比べ微増となった。その中で一般財源充当事業費は、736億円余となり、税収不足分のおよそ49億円を基金(貯金)から繰り入れするという内容であった。全事業の見直しを行い、昨年度の予算案と比較し、一般財源を11億2900万円程削減したことについては一定の評価をするが、「687億円以内に予算を収める」という目標を達成出来なかったことについて、区からの納得できる答弁はなかった。

区は当面の間、基準となる一般財源規模を687億円として、その範囲内で予算作成する方針を掲げている。し